

第1章 計画策定の背景と趣旨

本市では、平成13年に豊かな幼稚園教育を目指すための指針「那珂町幼稚園教育振興計画」を策定し、平成23年度を目標年度として、各種施策を積極的に展開してきました。

この間の平成15年には預かり保育を開始し、さらに菅谷幼稚園では3歳児保育を実施しました。また、適正な規模での教育環境を維持するため、平成15年に本米崎幼稚園を閉園し、平成22年には戸多幼稚園と木崎幼稚園を芳野幼稚園に統合しました。

さて、近年の少子化、核家族化など子どもたちを取り巻く環境の急激な変化は、家庭、地域の教育力を低下させ、幼児の育ちに大きな影響を与えています。基本的な生活習慣や態度が身に付いていない、他者とのかかわりが苦手である、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていない、運動能力が低下しているなど多くの課題が指摘されており、小学校入学時に落ち着いた生活ができない、いわゆる「小一プロブレム」が問題となっています。

こうした状況の中、国においては、中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」（平成17年1月）に示された今後の幼児教育の具体的な取り組みの方向性をもとに、国の施策を中心とする幼児教育に関する総合的な行動計画、「幼児教育振興アクションプログラム」（平成18年10月）を策定しました。

茨城県は、国の趣旨を受け、「いばらき幼児教育プラン」（平成19年3月）を策定し、県及び市町村の幼児教育の今後の在り方を示しました。

那珂市教育委員会では、国や県の計画を踏まえ、幼児教育の振興に関する施策を効果的に推進するため、那珂市幼稚園教育振興計画を策定するものです。

第2章 計画期間

この振興計画の期間は、平成24年度から平成33年度までの10年間とします。なお、この計画については、定期的に進捗状況を確認し点検・評価を行うとともに、国の動向や社会情勢の変化等を考慮し、必要に応じて見直しを図ります。

第3章 幼児教育の重要性と幼稚園教育の役割

幼児期は、心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われ生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通し、人間としてより良く生きるための基礎を形成する極めて重要な時期です。日々急速に成長するこの時期に、経験しておかなければならないことを十分にさせることが重要です。

幼児期における教育が、その後の人間としての生き方を大きく左右する重要なものであることを認識し、子どもたちの育ちについて常に関心を払うことが必要です。

幼児教育とは、小学校就学前の幼児に対する教育を意味し、幼児が生活するすべての場において行われる教育を総称したもので、愛情やしつけなどを通して幼児の成長の最も基礎となる心身の基盤を形成する「家庭」、様々な人々との交流や身近な自然とのふれあいを通して豊かな体験が得られる「地域社会」、また、幼児が家庭での成長を受け、集団活動を通して家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、教員等に支えられながら幼児期なりの豊かさに出会う「幼稚園等施設」で行われます。家庭・地域社会・幼稚園等施設それぞれが有する教育機能を互いに発揮し、バランスを保ちながら、幼児の自立に向けて健やかな成長を支えることが基本になります。

中でも、幼児教育の中核である幼稚園教育は、幼稚園教育要領において、自発的な活動「遊び」を重要な学習として位置付けた教育課程を編成しています。適切な施設設備の中で、教職員が組織的・計画的な指導を行なうことで、人として心豊かにたくましく生きる力を身に付け、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な役割を持ちます。

さらに、学校教育の始まりとして幼児教育をとらえる時、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」や「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康・体力」から成る、「生きる力」の基礎を育成する役割も担っています。